

# 令和7年度 上尾市立東小学校 学校評価報告書

★評価基準 A：当てはまる B：どちらかという当てはまる C：どちらかという当てはまらない D：当てはまらない

★評価の平均を数値化し、その数字の小数点以下を四捨五入し、4=A、3=B、2=C、1=Dとした。

領域	学校関係者評価				学校関係者評価	
	番号	対象者	参考とする教職員自己評価及び児童・保護者アンケートの設問内容	評価結果	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言 ◆課題・改善点
○ 学校教育目標の具現化・学校運営	1	職員	学校は、学校教育目標の実現を目指し、学校運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。	A (3.5)	○学校としての考え ◆課題・改善点 ○学校は、教職員のチームワークを生かし、前年度よりも前進できるよう「できる方法」を常に模索し、教育目標の具現化を図った。 ○学校は、学校教育目標の具現化に向けて、児童の学習や生活の様子を学年やブロック、学校全体で情報を共有してきた。各分掌部会等では、児童の実態をもとに具体的な手立てを講じ、実行できた。 ◆学校は、学校教育目標の具現化に向けた教育活動をどのように取捨選択していくかの課題がある。	A (3.5)
		児童	自分からすすんで勉強や運動をしたり、友達へやさしくしたりすることができる。	A (3.5)		
		保護者	お子さんは、主体的に学習や運動に取り組んだり、相手を思いやった行動をしたりすることができる。	B (3.0)		
	2	職員	教職員は、自己の職務の役割を認識し、各分掌や学年が連携協力して、学校運営に参画している。	A (3.5)		A (3.7)
		児童				
		保護者				
	3	職員	学校は、「笑顔いっぱい東っ子」の具現化に向けた取組を行っている。	B (3.4)		B (3.2)
		児童	東小は笑顔がいっぱいだ。	A (3.6)		
		保護者	お子さんは、学校で楽しく笑顔で過ごしている。	B (3.4)		
1 確かな学力の育成	4	職員	教職員は、教材研究を充実・深化させ、わかりやすく、きめ細やかな指導を行っている。	B (3.4)	○学校は、児童が分かると感じる授業を常に目指し、研鑽を重ねている。特に今年度は教員各自が自身で定めた課題をもとに研究授業を行い、部会で検討して授業力向上を図ることができた。 ○学校は「あげお学びのイノベーション」を推進し、ICT端末を積極的に利用し、効果的な活用方法の向上を図ることができた。 ◆学びに必要な4つの力を意識した授業づくりをさらに推進し、児童や保護者に4つの力を意識させていく必要がある。 ◆学校は、児童の興味や関心を高めるためにICT端末の活用に積極的に取り組んでいるが、学習への苦手意識が高い児童が、自己有用感をもって学習に取り組めるように、授業改善を図っていく必要がある。また、教員による個人差も課題である。	B (3.2)
		児童	先生の授業は、わかりやすい。	A (3.7)		
		保護者	学校は、わかりやすい授業のために、教材や教え方を工夫している。	B (3.3)		
	5	職員	教職員は、学びに必要な4つの力(①自ら進んで学習する力、②集中して学習する力、③協力して学習する力、④継続して学習する力)を育成している。	B (3.3)		B (3.0)
		児童	授業中、集中して学習することができる。	B (3.4)		
		保護者				
	6	職員	学校は、ICT機器を活用し、学びのイノベーションを推進している。	B (3.4)		A (3.5)
		児童	タブレットを使った学習はわかりやすい。	A (3.6)		
		保護者	学校は、ICT機器の活用能力を身に付けるための効果的な指導を行っている。	B (3.1)		

領域	学校関係者評価				学校関係者評価			
	番号	対象者	参考とする教職員自己評価及び児童・保護者アンケートの設問内容	評価結果	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価 学校関係者評価委員の意見・提言		
2 豊かな心の育成	7	職員	教職員は、児童の自己肯定感を高める積極的な言葉かけをしている。	A (3.5)	○学校は、児童があいさつや時間を守ることが身に付くよう率先垂範している。特に、あいさつについては、地域の方々の力を借りたあいさつ運動を継続して実施することができた。 ○児童会による宝探しの活動や、ほかほか言葉の啓発など、いじめの未然防止に向けた取組を充実させるとともに、見逃し0を基本とし、起きた場合の事後の指導と見守りを徹底した。 ○保護者の協力を得て、家庭の日の道徳の取組が実施できた。 ◆学校は、登下校中を含む学校外での挨拶を増やすよう指導をさらに工夫し、継続していく必要がある。 ◆登下校時や教員が直接指導していない場面での児童同士のトラブルを減少させることが課題である。	B (3.3)		
		児童	先生は、たくさんほめてくれる。	B (3.4)				
		保護者	学校は、お子さんの自己肯定感を高めるための取組を行っている。	B (3.1)				
	8	職員	学校は、「いじめ見逃し0」のために、いじめの未然防止のための指導を行っている。	A (3.5)			A (3.5)	
		児童	「いじめは絶対にやってはいけないこと」だとわかっている。	A (3.9)				
		保護者	学校は、いじめの未然防止のための指導を実施している。	B (3.2)				
	9	職員	学校は、道徳の授業を充実させ、教育活動全体を通して児童の道徳的実践力を養っている。	A (3.5)				A (3.6)
		児童						
		保護者						
3 健やかな体の育成	10	職員	教職員は、体育授業等において、運動量の確保や運動技能向上のための取組を行っている。	B (3.3)	○自転車交通安全教室や教職員対象の不審者対応訓練等を実施する等、安全への取組を充実させることができた。 ○食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談を実施し、日々の事故防止に努めている。 ◆日常的に安全点検を実施したり、計画的に避難訓練を実施したりしてきた。今後は、放課後の過ごし方や交通安全への意識をより高めるための取組を実施していく必要がある。 ◆児童の体力の向上を目指し、体育授業の工夫や水泳学習、東小スポーツdayを実施した。体力の二極化に係る方策をさらに工夫し、体育授業等の充実を図っていく必要がある。	B (2.8)		
		児童	体育の時間や休み時間に、たくさん運動している。	B (3.4)				
		保護者	学校は、お子さんの運動量の確保や運動技能向上のための取組を行っている。	B (3.0)				
	11	職員	学校は、保健、給食、防災等の指導や取組を充実させ、安全な環境づくりに取り組んでいる。	A (3.6)			B (3.3)	
		児童	「自分の命は自分で守る」を意識して安全に生活している。	A (3.7)				
		保護者	学校は、保健、給食、防災等の指導を通して安全な環境づくりに取り組んでいる。	B (3.3)				
4 自立する力の育成	12	職員	教職員は、児童が自分の考えを話したり、人の話を聞いたりすることができるよう意識して指導している。	B (3.3)	○学び合いと対話のある授業づくりのための個人研究を多くの教員が行い、授業実践に取り組んだ。 ○学校応援団と連携してトイレ清掃、花壇の整備等に取り組んだ。 ◆清掃の時間に話をせずに清掃に集中して取り組む児童の育成のための指導方法についてさらなる工夫改善が必要である。 ◆校舎の老朽化に伴い、計画的な修繕等を行っていく必要がある。	B (3.2)		
		児童	自分の考えを話したり、人の話を聞いたりすることができる。	A (3.5)				
		保護者	お子さんは、自分の考えを話したり、人の話を聞いたりすることができる。	B (3.1)				
	13	職員	学校をきれいにしようとする思いを育成する清掃指導を行っている。	B (3.2)			B (2.8)	
		児童	学校をきれいにしようとして集中して清掃している。	A (3.6)				
		保護者						

領域	学校関係者評価				学校関係者評価	
	番号	対象者	参考とする教職員自己評価及び児童・保護者アンケートの設問内容	評価結果	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価 学校関係者評価委員の意見・提言
5 多様なニーズに対応した教育の推進	職員	学校は、児童一人一人の状況に応じた多様な支援を充実させている。	A (3.5)	○不登校児童、長期欠席児童に対して、ケース会議を開いて対応を検討し、組織的に対応できた。 ○スペシャルサポートルームの環境をととのえ、不登校を生まない取組の一つとして一定の効果があった。 ◆今後は、共通理解のもと組織的な対応を進めていくことが課題である。 ◆スペシャルサポートルームを利用する児童の学習面や教室復帰などに向けた取組等に課題がある。	B (3.0)	○スペシャルサポートルーム等の不登校傾向の子供の受け入れ体制が整備されている。 ○不登校児童等については、ケース会議を開くなど、担任の先生任せにせず、組織で情報を共有して対応している。 ○スペシャルサポートルームについては、サポートルームティーチャー不在の際など学校全体のバックアップも配慮されていると感じた。S R Rが特別な存在ではなく多様な学びのための選択肢の一つであり、あって当たり前の存在で積極的に活用できる様教職員皆さんの一層の理解向上を望む。これから利用する児童の増加などを見据え、一層の環境整備も必要になっていくと思う。 ◆スペシャルサポートルーム等の学校の取組をより発信する必要がある。 ◆連休や長期休暇の家庭での生活が、ゆるかったり、甘かったりして、ぬくぬくの生活をしている休日の翌朝は登校できない子供が多い。 ◆登校のマナーが悪い。道幅いっぱい広がって歩くことや、挨拶の返事をしない高学年が多い。 ◆不登校、長期欠席となる前からの心の変化を早くつかめる仕組みづくりに取り組んでほしい。
	14 児童	困っているとき、いろいろな先生が声をかけてくれる。	B (3.4)			
	保護者	学校は、お子さんの一人一人の状況に合わせた支援を行っている。	B (3.1)			
	職員	学校は、不登校、長期欠席児童に、対応マニュアルに基づき組織的に対応している。	A (3.5)		B (3.0)	
	15 児童					
	保護者	学校は、不登校の早期発見、早期対応を行っている。	B (3.0)			
6 質の高い学校教育のための環境の充実	職員	資質能力の向上のために、積極的に研修に参加している。	B (3.4)	○学校課題研究として、個別に課題を設定し研究を進めたことで、教職員一人一人が主体的に研究に取り組み、授業力の向上につなげることができた。 ○働き方改革の意識が高まり、時間外在校等時間を軽減することができた。 ○学校は、施設の安全だけでなく、盗撮や死角のないよう事故防止の視点からも毎月の安全点検を行っている。 ◆働き方改革の推進により、教員と保護者との信頼関係が築きにくくなったと感じている保護者もいることから、子供や保護者に対応する時間をどう確保していくかが課題である。 ◆学校は、働き方改革をさらに推進し、時間外在校等時間を月45時間以内、年360時間以内の実現を100%実現する必要がある。 ◆校舎の老朽化に伴い、計画的な修繕等を行っていく必要がある。	B (3.2)	○勤務時間の削減、年休取得促進等に向けた働き方改革の推進を実感している先生方が増えていて、改革の成果が見え始めている。 ○教職員が心身ともに健康であることは児童の安心感向上にもつながる。教職員でないといけない仕事に集中できる環境の拡大を図って頂きたい。 ◆休み時間に一緒に遊んでくれると思っている子どもが少し低めとなっている。次の授業の準備等、忙しいとは思いますが、子供とコミュニケーションが取れる余裕があるときは、休み時間も積極的に子供に関わっていただけるとありがたい。 ◆働き方改革により、児童と教員の気持ちの距離が評価に表れていると思う。 ◆働き方改革による空いた時間は家庭サービスも大切だが、スキルアップも大切である。
	16 児童					
	保護者	学校は、教職員の資質向上のために研修を実施している。	B (3.3)			
	職員	学校は、時間外在校等時間の軽減、年休取得促進等に向けた働き方改革を推進している。	A (3.5)		B (3.0)	
	17 児童	先生は、休み時間に一緒に遊んでくれる。	B (2.9)			
	保護者	教職員は、心の余裕をもって児童の対応を行っている。	B (3.2)			
	職員	校内の整理整頓、毎月の点検を通して安全な環境整備を行っている。	A (3.7)		B (3.4)	
	18 児童					
	保護者	学校は、校舎設備等が整頓され、安全な環境である。	B (3.1)			
7 家庭・地域・関係機関との連携	職員	学校公開日、ホームページ、便り等で積極的に保護者や地域に情報を発信している。	A (3.8)	○学校は、さくら連絡網やホームページを活用して学校の様子や連絡事項について保護者や地域の方がへ伝えている。 ○学校応援団の方々にトイレ清掃、緑のカーテン等環境整備作業等の支援していただいている。PTA主催で「東小フェスティバル」を実施できた。 ○学校運営協議会で、学校の強みを生かした目指す学校像について、「熟議」を通して深めることができた。 ◆より情報を保護者や地域の方々にわかりやすく伝えていくために、ホームページの内容を充実させるなど工夫していく必要がある。 ◆学校運営協議会を中心に、学校、家庭、地域における持続可能な連携体制の構築を進めていく必要がある。	B (3.4)	○学校運営協議会を通して、各組織の代表からの意見を取り入れて学校の運営に取り組んでいただいている。 ○学校応援団やPTAによる催しにも可能な範囲で協力し、協働して実施している。 ○さくら連絡網で様々な情報を発信されている。さらなる充実を期待したい。 ○ほぼ毎日登下校の見守りをしているが、低学年と帰るのが楽しい。 ○さくら連絡網は学校の他、教育委員会からも情報が発信され、中には貴重な資料としてプリントしておくこともある。 ○教職員の働き方改革や保護者の共働き世帯の増加などもあり、これまでより関係性を濃くすることが難しいと思うが、ポジティブな情報発信をしていって頂ければ、東小は上平地区と上尾地区が校区であるので、自治会や青少年育成連合会などとの連携で地域の中の学校としてこれからも密な連携を望む。 ◆地域や団体と協働して実施した成果のPRについては不足している。さくら連絡網等を活用して広報すると保護者にも広く伝わる。 ◆さくら連絡網で流れても、保護者の参加が少ない。 ◆さくら連絡網の発信は早すぎても、遅すぎてもだめ。地域の人たちはさくら連絡網が通じないので、案内は郵送で送るなどの工夫が必要である。 ◆保護者との連携についても時代に即したのものとなる様、学校や保護者共に過度な負担となる事が無い様な活動をそれぞれで心がけて、持続可能な取組となる様に連携して頂きたい。
	19 児童					
	保護者	学校は、積極的に情報発信を行っている。	B (3.2)			
	職員	コミュニティ・スクールとして、保護者や地域、学校応援団（PTA・おやじの会を含む）と連携として活動している。	A (3.5)		B (3.0)	
	20 児童					
	保護者	学校は、保護者、地域等と連携して活動している。	B (3.2)			